

# イベントプログラム

13:00 開場

13:30 オープニング 合唱団『はるか』(メンバー:認知症の人・家族・支援者)

13:35 主催者代表挨拶

13:40~14:40

## 報告

### 「新・京都式オレンジプラン ～認知症当事者による評価を踏まえて～」

- ①当事者による10のアイメッセージ評価  
森 俊夫氏 (京都府立洛南病院)、孫 希叔氏 (社会福祉法人同和園)
- ②認知症のわたしたちが集い、語り合う～本人ミーティング～  
平尾和之氏 (京都文教大学)、川口秀子氏 (京都府丹後保健所)
- ③新・京都式オレンジプランが目指すもの  
三木秀樹氏 (京都府医師会)、西村幸秀氏 (京都府医師会)



14:55~16:15

## トークセッション

### ラジオ公開収録

3/25(日) 15:45~16:45  
KBS京都ラジオで放送

### 「認知症になっても安心して暮らせる 京都を目指して」

- コーディネーター：成本 迅氏 (京都府立医科大学附属病院)
- ナビゲーター：竹内弘一氏 (KBS京都アナウンサー)
- 登壇者  
橋本武也氏 (社会福祉法人同和園)  
澤田親男氏 (北山病院)  
岩井秀樹氏 (精華町福祉課)  
川北雄一郎氏 (宇治市福祉サービス公社)  
伊藤俊彦氏、伊藤元子氏 (認知症当事者・家族)



16:15~16:30 当事者からのメッセージ

16:30 閉会

## 京都地域包括ケア 推進機構

TEL.075-822-3562

FAX.075-822-3574

### 構成団体 (39 団体) ※50音順

京都府立医科大学、一般社団法人京都府医師会、公益社団法人京都府栄養士会、公益社団法人京都府介護支援専門員会、一般社団法人京都府介護福祉士会、一般社団法人京都府介護老人保健施設協会、公益社団法人京都府看護協会、京都大学、京都府行政書士会、一般社団法人京都府言語聴覚士会、京都府後期高齢者医療広域連合、京都府国民健康保険団体連合会、一般社団法人京都府作業療法士会、一般社団法人京都府歯科医師会、公益社団法人京都府歯科衛生士会、京都市市長会、京都司法書士会、社会福祉法人京都府社会福祉協議会、社会福祉法人京都市社会福祉協議会、一般社団法人京都社会福祉士会、一般社団法人京都私立病院協会、一般社団法人京都精神科病院協会、京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会、京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会、京都府町村会、一般社団法人京都府病院協会、京都府立大学、京都弁護士会、一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会、京都府民生児童委員協議会、京都市民生児童委員連盟、一般社団法人京都府薬剤師会、一般社団法人京都府理学療法士会、京都府慢性期医療協会、京都府リハビリテーション連絡協議会、一般社団法人京都府老人福祉施設協議会、一般社団法人京都市老人福祉施設協議会、京都府、京都市

きょうと認知症 あんしんナビ

京都認知症ナビ 検索

認知症に関する  
ご相談は

京都府認知症コールセンター  
0120-294-677

月曜日～金曜日10:00～15:00  
土・日、祝日、お盆(8月13日～8月16日)、  
年末年始(12月27日～1月5日)を除く

# 新・京都式オレンジプランキックオフイベント

# きょうと認知症の人にやさしい、



# ぎょうとづくりフォーラム

平成30年

3月18日(日) 13:30-16:30  
[13:00開場]

会場 京都テルサホール (京都市南区東九条下殿田町70  
京都府民総合交流プラザ内)

定員 800名(先着順)

プログラム  
PROGRAM

主催 ● 京都地域包括ケア推進機構 / 京都府 / 公益社団法人認知症の人と家族の会  
http://www.kyoto-ninchisho.org/ http://www.alzheimer.or.jp/



## 開催趣旨

京都では、2013（平成25）年に京都式オレンジプラン（京都認知症総合対策推進計画。以下、「プラン」という）を策定し、認知症の人とその家族が望む社会の姿を「10のアイメッセージ」に掲げ、その実現に向けて、オール京都体制で取組を進めてきました。

また、今年度、新・京都式オレンジプラン（以下、「新プラン」という。）の策定にあたっては、関係者の皆様の協力のもと、認知症の当事者自らがプランの達成状況を評価・検証する「10のアイメッセージ評価」を行いました。また、認知症の人たちが自らの体験・希望や暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う「本人ミーティング・家族ミーティング」を府内2箇所で開催し、当事者の視点に立ち、さらなる取組の充実を図りました。

本フォーラムは、新プランに沿って認知症の人や家族の思いを再確認いただき、周囲の人の正しい理解のもと、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、取組の一層の推進を期待して開催するものです。

## オレンジプランとは

京都地域包括ケア推進機構（以下、「機構」という。構成団体は裏面参照）が、2013年9月、全国に先駆けて策定した認知症総合対策推進計画です。認知症の人や家族が望む社会の姿である「10のアイメッセージ」の実現をプランの目標に掲げ、医療・介護・福祉等関係者や府民の行動指針として策定したことが、特徴です。計画期間の最終年を迎えた2018年3月、2023年度までの6年間の計画期間とする「新・京都式オレンジプラン」を策定しました。



## 10のアイメッセージとは

「10のアイメッセージ」は、認知症の人や家族の望む社会の姿を認知症の「私」を主語にして明文化したものです。イングランドの認知症国家戦略の「9つのアウトカム」を参考に、プランの成果指標に位置付けています。

今回、オール京都体制で推進した5年間の取組について、点検及び評価を行うと同時に、ご意見やご提案を幅広く把握し、新プランに反映するため、100名を超える認知症の人や家族、支援者に参加いただき、全国初の取組として「10のアイメッセージ評価」を実施することができました。今回のフォーラムではこの評価の結果や意義をご報告します。

## 出演者

### 総合司会、トークセッションナビゲーター

竹内弘一氏  
(KBS京都アナウンサー)

2000年KBS京都入社。アナウンサーと、現場記者、ニュースデスクを兼任。実際に現場に赴き自分でカメラ、出演、編集までマルチにこなす。



## 13:40～14:40 報告

### 「新・京都式オレンジプラン ～認知症当事者による評価を踏まえて～」



森 俊夫氏（京都府立洛南病院）

永年認知症の診療にあたった経験から、「10のアイメッセージ」策定を提案。当事者グループとともに認知症の人にやさしいまちづくりを推進。



孫 希叔氏（社会福祉法人同和園）

京都式認知症ケアを考えるつどい実行委員会として活動。本人評価を分析した経験から今回の10のアイメッセージ評価のとりまとめを担当。



平尾和之氏（京都文教大学）

臨床心理学部教授。宇治市認知症アクションアライアンスにおいて、当事者研究グループミーティングを実施。今回、本人ミーティング・家族ミーティングの開催・分析を担当。



川口秀子氏（京都府丹後保健所）

丹後地域における認知症対策を市町村とともに推進。プラン改定に際し、本人・家族ミーティングを関係者とともに丹後地域で初めて開催。



三木秀樹氏（京都府医師会）

京都府医師会理事。物忘れ外来で認知症の診療を行うとともに、機構認知症総合対策推進プロジェクト委員として、2013年のプラン策定時から認知症対策の推進に携わる。



西村幸秀氏（京都府医師会）

京都式オレンジプラン改定検討ワーキング座長。認知症の診療を行うとともに、京都府医師会理事として医療体制の構築に取り組む。

## 14:55～16:15 トークセッション

### 「認知症になっても安心して暮らせる 京都を目指して」



成本 迅氏（京都府立医科大学附属病院）

基幹型認知症疾患医療センターの医師として、認知症の人と家族の会京都府支部が開催する若年性認知症の人のつどいを支援するとともに、認知症の人の意思決定支援に取り組む。



橋本武也氏（社会福祉法人同和園）

京都式認知症ケアを考えるつどい実行委員会事務局長として活動。特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人の立場から、途切れない認知症ケアを提言。



澤田親男氏（北山病院）

主に認知症を専門に診療にあたるとともに、北山病院がある京都市の岩倉地域において医療・介護・福祉関係者が連携し合う地域づくりに取り組む。



岩井秀樹氏（精華町福祉課）

福祉課長として精華町での認知症にやさしいまちづくりを推進するとともに、京都式オレンジプラン改定検討ワーキング委員として市町村の立場からプラン改定に向けた意見を提言。



川北雄一郎氏（宇治市福祉サービス公社）

宇治市の認知症初期集中支援チームや認知症カフェ等の認知症初期支援に携わるとともに、認知症にやさしいまちづくりに従事。



伊藤俊彦氏・元子氏  
(認知症当事者・家族)

宇治市在住。68歳の時、認知症と診断される。診断後は妻、元子さんのサポートのもと不安を乗り越え、「認知症とともに生きる」をめざし、各地に出向き、講演活動を行う。